

## 第62回 Pitch to the Minister懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

### 1. 開催日時・出席者等

○日時：令和元年8月7日(水)16:00～17:00

○場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitchテーマ：AIによる創薬、合成生物設計の自動化～科学研究の自動化への挑戦～

○招へい者：島田 幸輝(しまだ こうき) SyntheticGestalt Ltd. Co-Founder&CEO

萩原 惇允(あつひろ) SyntheticGestalt Ltd. Co-Founder&COO/内閣府SIP第2期スマートバイオ産業・農業基盤技術担当 戦略コーディネータ

○出席者：平井国務大臣、別府内閣府審議官、三輪政府CIO(IT)、神成政府副CIO(IT)、赤石イノベーション総括官、三又局長(知財)、松尾局長(宇宙)、渡邊次長(知財)、滝澤参事官(宇宙)、渡辺次長(健康医療)、鈴木参事官(科技)、古本参事官(健康医療)、平井参事官(IT)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

### 2. 島田氏、萩原氏からの説明

○SyntheticGestalt社は、2018年3月に創業し、短期間で官民双方との協業実績を有するライフサイエンス領域に特化した人工知能開発会社である。

○AI(人工知能)による科学研究の自動化をコンセプトとし、創薬の自動化および合成生物設計の自動化を主たる事業領域としている。

○ビジネスチーム、研究開発チームは多様な専門性を有するメンバーで構成され、ライフサイエンス領域で国内外の著名なアドバイザーと連携している。

### 3. 質疑応答・議論

○ベンチャー企業のシード段階での資金調達について、欧米に比べ日本での調達は難しい。例として、海外企業との共同等に対して国が支援するような仕組みがあるとよいとの意見があった。資金調達に関してはLINK-J等を利用してはどうかとの意見があった。

○ベンチャー企業を国家プロジェクトに参画させる提言について、一部のプロジェクトにベンチャー企業を加えてはどうかとの意見があった。

○AIのモデル作成についてはコストは大きくなく、課題は品質のいいデータの取得である。現状では、そもそもデータが存在しない、アクセスが難しい、または研究者がネガティブデータを捨ててしまう等の課題があり、データ化されていない領域をデータ化する取り組みが必要との意見があった。

○アメリカに対し、日本の強みはバイオロジーがわかるAI人材である。AI人材は育っており、海外に流出していないとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)